

営農技術情報

一畑作(大豆③)一

令和3年 6月 7日発行

上川農業改良普及センター名寄支所 TEL01654-2-4524
JA道北なよろ TEL01655-3-2521
JA道北なよろ営農センター TEL01654-3-4307

～わい化病（アブラムシ類）の防除を行いましょ～

1 病害虫防除

(1)アブラムシ類

ジャガイモヒゲナガアブラムシは、ダイズわい化病を媒介します。わい化病を発病すると着莢しないか、着莢しても種子の肥大が抑制され著しく減収します。また、罹病株は枯れ上がらずに青立株として残るため、汚粒発生の要因にもなります。

「クルーザーMAXX」、「クルーザーFS30」の効果持続期間は、約1ヶ月間です。は種1ヶ月後を目安に、防除を行いましょ。

表1 アブラムシ類の防除薬剤例（令和3年度JA農作物施肥・病害虫・雑草防除ガイドより）

薬剤名	系統名	使用倍率	使用時期	回数
モスピランSL液剤	ネオニコチノイド	4,000倍	収穫14日前	3
ゲットアウトWDG	ピレスロイド	3,000倍	収穫7日前	3

(2)茎疫病

連作ほ場で発生しやすく、ほ場内の排水不良部分から発生・拡大することが多い病害です。ほ場内で滞水することがないように、明渠の整備や溝切りを行い、排水路を確保しておきましょう。

また、発生暦のあるほ場では早めに予防防除を行うとともに、連続した降雨が予想される場合は、降雨前の防除を行うようにしましょ。

表2 茎疫病の防除薬剤例（令和3年度JA農作物施肥・病害虫・雑草防除ガイドより）

薬剤名	使用倍率	使用時期	回数
プロポーズ顆粒水和剤	1,000倍	収穫21日前	2
リドミルゴールドMZ	500倍	収穫45日前	3

2 中耕・除草 ～着蕾期までに2～3回～

- ・1回目の中耕は、土壌処理除草剤の効果持続期間（3週間～1ヶ月）を考慮し、暖かい日に行いましょ。
- ・2回目以降は、雑草の発生状況や降水量を考慮して行いましょ。
- ・作物体が小さい時期は幅を広く、深さを浅く、作物体が大きくなったら幅を狭く、深さを深くし、作物体や根を傷つけないように注意しましょ。
- ・着蕾以降は落花を誘因する恐れがあるため、着蕾期まで（平年：7月初旬）には最終の中耕を終えましょ。

◎ 農薬は使用基準を守り、農薬飛散に注意しましょ ◎